

登録コード	TSX34500	開講年度	2026			
授業科目	建築構造設計学実験Ⅱ				担当教員	諏訪田 晴彦
英文授業名	Structural design experiment 2				副担当	
単位数	4	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	実験	備考	建築学分野2年生
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				⇔	【授業の達成目標】
	2 4 TSカリ					
	【研究科共通】環境調和社会，知識基盤社会を多様に支える高度な専門知識と実践的技術力				⇔	構造設計における力学的根拠や理論的背景に関する問題点を抽出できるようになる。
	2 6 TSカリ，2 5 TSカリ，2 4 TSカリ					
	【専攻】工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観				⇔	構造設計における問題点を的確に把握したうえで構造実験計画が策定できるようになる。
	2 6 TSカリ，2 5 TSカリ					
	【専攻】環境調和社会，知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力				⇔	構造設計における問題点を的確に把握したうえで構造実験が実施できるようになる。
(2)授業の概要	RC造建築物の構造設計の発展と構造実験の関わりについて、これまでの歴史から学ぶ。さらに近年のRC構造に関する実験について文献調査を行い、構造設計における問題点の抽出方法を学習する。抽出された問題点を解決するために適切な実験パラメータを設定し、数値実験を行い。その結果を分析し、発表とディスカッションを通じて研究論文へと発展させる。					
(3)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回～第7回 構造設計の発展と実験の関わり 第8回～第9回 RC梁部材に関する近年の実験に関する文献調査 第10回～第11回 RC柱部材に関する近年の実験に関する文献調査 第12回～第13回 RC柱梁接合部に関する近年の実験に関する文献調査 第14回～第15回 RC耐震壁に関する近年の実験に関する文献調査 第16回～第18回 RC梁部材に関する数値実験 第19回～第21回 RC柱部材に関する数値実験 第22回～第24回 RC柱梁接合部に関する数値実験 第25回～第27回 RC耐震壁に関する数値実験 第28回～第29回 実験結果の発表、討論 第30回 総括					
(4)成績評価の方法	文献調査に対するレポート（50点満点）および数値実験に対するレポート（50点満点）によって評価する。					
(5)成績評価の基準	文献調査に基づく構造設計の問題点の把握ができ、それに基づく数値実験計画の策定および結果の取りまとめができれば「水準にある」。実験手法に関する理解度と創造性、パラメータの設定方法や設定範囲に対する理解度と創造性に応じて、「やや上にある」、「かなり上にある」、「卓越している」を評価する。					
(6)事前事後学習の内容	本授業は4単位であることから、180時間の学修が必要となる。 その内訳は授業時間60時間（2時間×30回）と自主学習時間120時間（4時間×30回）であり、ノートや参考資料を使用した自主学習を進めた上で授業に臨むこと。					
(7)履修上の注意						
(8)質問,相談への対応	原則、メールで対応する（アドレス：suwada@shinshu-u.ac.jp）。					
(9)その他						
【教科書】	指定しない。					
【参考書】	指定しない。					